Japan Bowling Congress

JBCnews

since1970

【毎月１回１日発行・１部20円】

JBCニュース
第543号 平成２９年２月１日
昭和50年５月19日第三種郵便物認可

発行所
公益財団法人 全日本ボウリング協会
東京都港区芝４－４－10
サンライズ長井ビル8F 03(3452)4501
http://www.jbc-bowling.or.jp/

先輩たちを超えていけ！

文部科学大臣杯 第23回 全国高等学校対抗選手権大会

堀越高校は、昨年女子が３度目の優勝。その伝統を継いで、男子もついに栄冠をつかみました。横浜南陵高校は９年ぶりの女子優勝で先輩たちの偉業に並びました。

入賞の常連も、初出場校も入り乱れての「ボウリングの甲子園」。歴代優勝に名を刻む両校には、プレッシャーもあったはず。見事に打ち勝って「強豪」の名を守りました。

写真提供・（公財）川崎市スポーツ協会

index

2～3面 第45回全日本クラブ対抗選手権大会
4～5面 第23回全国高等学校対抗選手権大会
6～7面 全日本ナショナルチームウィンターキャンプ
8面 ナショナルチーム通信、INFORMATION

JAL国内線 class J

ひとつ上の座り心地が、
次の仕事への気持ちを高める。

プラス1,000円で、ひとクラス上の快適を。
JAL国内線〈クラス J〉

理想のくつろぎを実現するために設計されたクラスJシートが、さらに進化しました。
しっとりとなめらかな質感の本革シート。
ゆとりのシートピッチに、深いリクライニング感。
あなたに、心地よい空の旅をお届けします。

JALは、到着時間の正確性を評価する「定時到着率」において2015年、主要3部門を制覇。5度目の世界一に認定されました。

航空券のご予約・ご購入、
ご搭乗手続きはこちらから www.jal.co.jp

写真はイメージです。実際の機内とは仕様が異なる場合がございます。

JAL
明日の空へ、日本の翼

ＪＢＣニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています スポーツくじ toto BIG

平成29年度 会員登録のごあんない

平成29年度の会員継続及び新規の会員登録は次の通り実施いたします。

一、継続会員登録

平成28年度の登録会員が資格者です。

①個人正会員
JBC個人正会員登録申請書（様式A－3、15名連記）に必要事項を記入し、所属団体を通じ提出。（会員証は平成27年度～平成29年度用を使用、赤ライン）

②個人普通会員
JBC個人普通会員登録申請書（様式B－3、15名連記）に必要事項を記入し、所属団体を通じ提出。（会員証は平成27年度～平成29年度用を使用、青ライン）

③実業団会員
JBC実業団登録申請書（様式C－1）及び実業団登録会員名簿（様式C－2）に必要事項を記入し（登録メンバー数を確認し実業団代表者又は人事管理者の確認印を押印）、所属団体を通じ提出。（会員証は平成27年度～平成29年度用を使用、オレンジライン）

④学生会員
JBC学校（大学）登録申請書（様式U－1）及び学生（大学）登録部員名簿（様式U－2）に必要事項を記入し、全日本学生連合を通じ提出。（会員証は平成27年度～平成29年度用を使用、水色ライン）

⑤高等学校登録会員
JBC高等学校登録申請書（様式H－1）及び高等学校登録会員名簿（様式H－2）に必要事項を記入し、所属団体を通じ提出。（会員証は平成27年度～平成29年度用を使用、ピンク色ライン）

⑥ジュニア会員
JBCジュニア会員登録申請書（様式J－1）に必要事項を記入し、所属団体を通じ提出。（会員証は平成27年度～平成29年度用を使用、黄緑色ライン）

※継続会員登録期限は平成29年3月31日までです。この期限を過ぎますと、すべて新規扱いとなりますので早めに所属団体で手続きを完了して下さい。

二、新規会員登録

新たに会員になる人は、随時加入することが出来ます。

◎個人正会員（新規用・様式A－2）、個人普通会員（新規用・様式B－2）、及び実業団会員、学生会員、高等学校登録会員、ジュニア会員（以上4区分は新規、継続併用）に必要事項を記入し、所属団体を通じ提出。

【注意事項】

(1)氏名は会員登録規程に従い記入し、必ずフリガナをつけること。

(2)住所、生年月日（平成29年4月1日現在の満年齢）、職業、電話番号を記入のこと。

(3)個人、ジュニア会員は特に支部名・クラブ名を記入のこと。

(4)学生会員については、継続、新規に関わらず出身高等学校名を記入のこと。

(5)ジュニア会員は、支部名・クラブ名、学校名または勤務先名を忘れずに記入すること。

(6)個人正会員から実業団会員に、実業団会員から個人正会員に移動登録する場合は、継続扱いとなり入会金は不要です。

(7)個人普通会員から個人正会員及び実業団会員になる場合は新規扱いとなります。

(8)個人正会員、実業団会員の会員番号は永久番号となります。

(9)年度会費の納入確認として、会員証の裏面に年度別会費納入シール（平成29年度は水色）を貼付します。

(10)その他、ご不明の点は都道府県連盟及び全日本学生連合にお問い合わせ下さい。

専門委員会レポート

アスリート・アントラージュ委員会

平成28年度第1回アスリート・アントラージュ委員会が12月24日(土)に開催され、委員会規程の制定や委員の選任等について審議しました。

副委員長には、女性の意見を取り入れるため森岡京子理事が選任されました。またアスリートを代表して全日本ナショナルチームの佐々木智之・向谷美咲両キャプテンが委員に推挙され、金安利和委員長を含め4名の体制が整いました。

この委員会では全日本ナショナルチームメンバー（ユース含む）とジュニアジャパンメンバーを対象者とし、選手のパフォーマンスを最大限発揮できる環境作り等に取り組みます。その一環として、ナショナルチームや国際大会における選手選考の透明化を目的とし「明確な基準の設定及び公開」を検討する要望書が提出されました。

連盟トピックス

神奈川県連盟 有海副会長に 文部科学大臣表彰

神奈川県ボウリング連盟の有海千鶴子副会長が、平成28年度文部科学大臣表彰を受章されました。

連盟では理事就任以来約30年にわたり、ジュニアと女性ボウラーの育成指導に尽力され、国体等で入賞の実績をあげました。また県内の各市町村ボウリング協会設立のために奔走され、先駆けとして横須賀市ボウリング協会を立ち上げるなど、地域に根差した競技普及と生涯スポーツとしての振興を推進したことが評価されました。

平成28年度JBC公認 第3種審判員認定会【茨城特別開催】合格者

▽宮城　遠藤明日香、本郷宏永隆夫、木村臣吾、春田恒平
▽茨城　長澤まり子、磯貝和伸、花田和文、金子範之、川島ゆりこ、遠藤能正、宮村寿蔵、山口直人、伊藤丈朗、松本千鶴子、佐藤貴夫
▽埼玉　秋元一美
▽千葉　立津力人、赤岡政之、佐藤貴夫

第45回 全日本クラブ対抗選手権大会

第45回全日本クラブ対抗選手権大会が1月20日(金)から22日(日)にかけて、福島・ボウルアピア郡山（公競№107－016）で開催された。全国から67のクラブチームが集まり、5人チーム戦で優勝を争った。

ベテランの実力者をそろえたスエヒロクラブ（徳島）が、要所で好ゲームをマークして初優勝を果たした。

ベテランの勝負勘！

志賀選手が宣誓

開会式

開会式は1月20日(金)11時55分から挙行された。各都道府県の連盟旗を手に監督が入場行進し、前回大会優勝のナゴヤクラブ（愛知）から優勝旗が返還された。

北川薫協会会長からのメッセージを齋藤良太郎専務理事が代読し、大会を主管する福島県ボウリング連盟・亀岡偉民会長の歓迎のことばが披露された。

競技規程説明、審判団の紹介に続いて、福島県代表・タイクラブの志賀悠吾選手が力強く選手宣誓し、3日間の競技がスタートした。

競技 予選

予選1回戦はベーカー方式。8ゲーム中6ゲームで200UPした大田クラブ（東京）が1687でトップに立った。2位のスエヒロクラブ（徳島）とは47ピン差がついたが、2位から6位までは12ピンの僅差で大混戦となっていた。

2回戦と3回戦はレギュラー方式（5人×3ゲーム）を行う。スエヒロクラブは2回戦でチームハイゲーム（1203）とチームハイシリーズ（3390）をマークする好投を見せ、トータル5030で首位に立った。和歌山グランドクラブA（和歌山）もこのシリーズ3349とし、スエヒロクラブを45ピン差で追った。

第45回全日本クラブ対抗ボウリング選手権大会 成績表

平成29年1月20日（金）～22日（日）
参加：67チーム 335名　会場：福島・ボウルアピア郡山

決勝ラウンドロビン（ベーカー方式）　13G

優勝	スエヒロクラブ	（徳島）	木村真理・堀田紘佑・曽我部文彦 神下克己・木村修	2,802
準優勝	ボウルアピア郡山クラブ	（福島）	志賀章子・舘侑希・石塚知明 石塚香織・遠藤邦夫	2,764
第3位	パークレーンクラブ	（群馬）	福田尊仁・富沢進・石川裕大 佐藤貴啓・宮澤拓哉	2,718
第4位	ナゴヤクラブ	（愛知）	吉田祐香・松崎清雅・伊藤宗一郎 山本一晶・吉田大祐	2,709
第5位	県南クラブ	（新潟）	広川勝義・渡邊望・中澤富夫 松田学・村山雅信	2,684
第6位	大田クラブ	（東京）	森野華世・森野丈栄・松原聡 本多裕典・富山幸雄・清水規文	2,637
ﾃﾞｭｱﾙﾚｰﾝ方式 ﾁｰﾑﾊｲｹﾞｰﾑ	スエヒロクラブ	（徳島）	木村真理・堀田紘佑・曽我部文彦 神下克己・木村修	1,203
ﾃﾞｭｱﾙﾚｰﾝ方式 ﾁｰﾑﾊｲｼﾘｰｽﾞ	スエヒロクラブ	（徳島）	木村真理・堀田紘佑・曽我部文彦 神下克己・木村修	3,390
ベーカー方式 ﾁｰﾑﾊｲｹﾞｰﾑ	和歌山グランドクラブB	（和歌山）	川口茉紀・川口紗希・山崎京 金谷佳哉・西田一善	268
個人ﾊｲｹﾞｰﾑ	川口茉紀	（和歌山）	和歌山グランドクラブB	299
個人ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	神下克己	（徳島）	スエヒロクラブ	764

イベントカレンダー 2月＆3月

▽2月3日(金)～5日(日)　第34回全日本実業団都市対抗選手権大会　岐阜・岐阜グランドボウル
▽2月10日(金)～12日(日)　JBC会長杯第32回全日本年齢別選手権大会　静岡・ボウルアピア静岡
▽2月18日(土)　ボウリング教室（キャラバン隊・長崎）　長崎・大村Jボウル
▽2月19日(日)　ボウリング教室（キャラバン隊・宮崎）　宮崎・宮崎エースレーン
▽2月21日(火)～23日(木)　第48回全日本大学個人選手権大会　京都・キョーイチボウル宇治
▽3月4日(土)　全日本ジュニア強化コーチ研修会（東地区）　東京・シチズンボウル
▽3月5日(日)　全日本ジュニア強化コーチ研修会（西地区）　大阪・イーグルボウル
▽3月17日(金)～20日（月・祝）　文部科学大臣杯第55回全日本選手権大会　愛知・稲沢グランドボウル
▽3月17日(金)　平成28年度第4回理事会　愛知・稲沢グランドボウル
▽3月17日(金)　平成28年度第3回評議員会
▽3月24日(金)～26日(日)　全日本ナショナルチーム選考会　岐阜・岐阜グランドボウル

事務局に新職員

よろしくお願いします

協会事務局に近藤新(あたら)職員が着任しました。認証検査員として公認競技場の検査を担当します。

公認ドリラー有資格者研修会開催中止のお知らせ

2月20日・21日に開催予定しておりましたJBC公認ドリラー有資格者研修会・ブロンズコース（広島会場）は、都合により中止となりました。

熊本地震災害義援金

順不同・敬称略

2016年12月・2017年1月

第23回全国高等学校対抗選手権大会	27,171
第45回全日本クラブ対抗選手権大会	7,566
長崎県ボウリング連盟	50,000
合計	84,737

賛助会員、特別法人・個人会員紹介

〈平成29年1月1日以降登録者〉

【特別法人会員】
▽山形県　株式会社マルキ（代表取締役井上智之）、大成商事株式会社（代表取締役洪性助）

【特別個人会員】
▽山梨県　河野隆昭（連盟会長）、尾形恵（同副会長）、鷹野進（同理事長）、小佐野泰（同副理事長）
〈順不同・敬称略〉

平成28年度 各連盟公認競技会・リーグ登録数

平成29年1月31日 現在

地区名	連盟	競技会 公認件数	競技会 開催実数	リーグ 公認件数
北海道地区	北海道	33	109	5
東北地区	青森	30	58	
	岩手	21	47	
	宮城	29	100	
	秋田	19	61	
	山形	23	84	2
	福島	19	18	
関東地区	茨城	20		1
	栃木	10	51	
	群馬	19	71	6
	埼玉	38	184	7
	千葉	19	39	30
	東京	29	91	16
	神奈川	32	87	31
	山梨	28	78	
北信越地区	新潟	11		
	長野	15	57	6
	富山	22	83	2
	石川	20	48	20
	福井	7		
東海地区	静岡	63	185	16
	愛知	62	248	5
	三重	36	105	
	岐阜	20	51	
関西地区	滋賀	34	140	
	京都	50	161	14
	大阪	42	48	9
	兵庫	24	58	26
	奈良	17	21	
	和歌山	15	16	
中国地区	鳥取	13	32	
	島根	8	19	2
	岡山	52	123	1
	広島	14	17	6
	山口	14	34	28
四国地区	香川	20	37	1
	徳島	11	32	1
	愛媛	8		
	高知	10	22	
九州・沖縄地区	福岡	45	140	82
	佐賀	9	12	12
	長崎	30	67	36
	熊本	20	33	60
	大分	15	1	21
	宮崎	31	96	13
	鹿児島	23	27	
	沖縄	24	71	28
全日本学生連合		22	5	7
総計		1,176	3,067	494

スエヒロクラブ（徳島）初V

5位につけていたボウルアピア郡山クラブ（福島）は3回戦で3336と打ち上げた。本八幡スターレーンクラブ（千葉）も3294をマークして、1・2位に浮上して予選を突破。3000台にまとめたスエヒロクラブは3位での通過となった。

決勝戦

決勝戦はベーカー方式。進出した24チームは2つのグループに分かれて総当たり戦を行う。

予選のスコアはリセットされるが、ここでも力を発揮したのは1位通過のボウルアピア郡山クラブだった。11ゲーム中7ゲームで相手に勝利してボーナスポイントを加算。ローゲームも182にとどめる安定感で、Aグループ内ダントツの1位につけた。

一方のBグループでは、ディフェンディングチャンピオンのナゴヤクラブ（愛知）がトップに立ち、スエヒロクラブも2位。勝ち星の奪い合いの中で、両チームはビッグゲームを活かすかたちでスコアを伸ばした。

3チームとも2300台に乗せて全体のトップ3につけた。残るはポジションマッチの2ゲーム。2つのグループで同じ順位のチームが2ゲーム勝負する。

ボウルアピア郡山クラブとナゴヤクラブは直接対決。地元での優勝を狙うボウルアピア郡山クラブが2連勝を決めたことで、ナゴヤクラブの連覇は絶たれた。

個人H／S神下(右)、H／G川口

スエヒロクラブは和歌山グランドクラブB（和歌山）を相手に220台を連発して快勝。ゲームスコアの高さが功を奏しトップ対決の2チームを逆転した。

個人でも全国トップの実績を持つベテランメンバーで大会に挑んだスエヒロクラブ。勝負どころを押さえたスコアメイクで初優勝を遂げた。

入賞チーム

ベーカーH／G　和歌山グランドクラブB

チームH／G、H／S　スエヒロクラブ

ガイド

全国のボウリングセンターを拠点に選手が集まる「クラブ」の日本一を競うのが、全日本クラブ対抗選手権。5名でチーム戦を行う。

予選は1回戦がベーカー方式（8ゲーム）で、2・3回戦がレギュラー方式（各5人×3ゲーム）で、トータルピンの上位24チームが決勝に進出する。

決勝は2つのグループに分かれてラウンドロビン（総当たり戦）を行い、各グループの同順位チームがポジションマッチ（2ゲーム）で対戦する。各ゲーム、勝利チームにはボーナスポイント20点がスコアに加算され、総スコアの合計で順位を決定する。

第543号 （第三種郵便物認可） JBCnews 平成29年2月1日 （5）

横浜南陵（神奈川）&堀越（東京）が制覇

文部科学大臣杯 第23回全国高等学校対抗選手権大会

文部科学大臣杯第23回全国高等学校対抗選手権大会が12月23日（金・祝）から25日㈰にかけて、神奈川・川崎グランドボウル（公競№114‐023）で開催された。全国から85の高校チームが集まり、ボウリングの甲子園でしのぎを削った。

男子は堀越高校（東京）が初優勝し、昨年の女子と合わせて2年続けての全国制覇に。女子は県立横浜南陵高校（神奈川）が9年ぶりの優勝で、伝統校の復活をアピールした。【写真協力・（公財）川崎市スポーツ協会】

（左から）
横浜南陵　内田、岩川、横山
堀越　鈴木、古畑

開会式

開会式に臨む出場選手

12月23日（金・祝）16時から、川崎市教育文化会館にて開会式が挙行された。始めに文部科学大臣杯が、昨年優勝校の堀越高校（女子）と県立横須賀工業高校（男子）から返還され、開幕の準備が整った。

協会北川会長

大会会長を務める北川冀協会会長は、近い将来日本を代表するプレーヤーとなる選手たちへ、今大会での健闘とアスリートボウラーを目指して鍛錬することを期待して挨拶した。

競技規程説明・認証報告に続いて、神奈川県代表校の県立釜利谷高校・恩田賢人選手と県立横浜南陵高校・内田侑希選手が選手宣誓を行い、開会式を終了した。

宣誓役は恩田選手（左）と内田選手

文部科学大臣杯を返還

パーフェクト 山本青空選手が達成 300

山本青空	藤花学園尾山台高校	
	石川県	17歳
使用ボール	Jackal LE(15p)	
公認ドリラー	細江裕生	（公認No. 1413‐19 ）

第23回全国高等学校対抗選手権大会において、山本青空選手（石川・藤花学園尾山台高校）が大会第12号となるパーフェクトゲームを達成。協会主催大会公認第409号パーフェクトゲームとして認定された。

成績優秀者に副賞

今大会優勝の堀越高校（男子）、県立横浜南陵高校（女子）両チームには、㈱アメリカンボウリングサービス、㈱サンブリッジよりボールバッグが副賞として贈呈された。

またパーフェクト達成の山本選手には会場の川崎グランドボウルより記念品が、800シリーズを達成した伊藤匠海選手（神奈川・県立釜利谷高校）には㈱アーク・インターナショナルよりボウリングウェアが贈呈された。

競技 女子の部

地元代表の強豪校、県立横浜南陵（神奈川）は最初の2ゲームで437をマーク。続く2ゲームも無難にまとめて1198でトップに立った。2位につけたのは県立佐屋（愛知）。2015年の和歌山国体では愛知代表として団体2位に入ったペアは初出場を果たすと、首位に10ピン差と好位置につけた。すると2回戦は佐屋の独壇場に。3ゲームとも400を大きく上回って1363をたたき出し、横浜南陵を190ピン上回って見せた。

3回戦は1125に留まった佐屋だったが、余裕のトップ通過。2回戦で横浜南陵に14ピン差まで迫っていた東海大翔洋（静岡）が2位を奪い、横浜南陵は3位で通過した。

決勝トーナメントは1ゲームマッチ。佐屋は苦戦しながらも8位通過の県立那覇商業（沖縄）に勝利した。東海大翔洋は7位通過の東奥学園（青森）と対戦。2人そろって190台にまとめるチームワークで勝ち上がりを決めた。

横浜南陵はユースナショナルチームメンバーの内田侑希が210の好ゲーム。これを活かして6位通過の今治精華（愛媛）に快勝した。4位県立和歌山北（和歌山）VS5位県立木曽川（愛知）は大接戦。和歌山北・山本栞那のパンチアウトで、5ピン差の逆転勝利となった。

予選のベスト4が順当に1回戦を勝ち上がった。続く2回戦、佐屋VS和歌山北はストライクラッシュに。伊勢川華愛が248と好投した和歌山北が優勝決定戦へ駒を進めた。東海大翔洋と横浜南陵の対戦は、8フレーム目まで1マークリードしていた東海大翔洋が9・10フレームで突如オープンフレーム。対照的にスペアを決めた横浜南陵が逆転となった。

優勝の実績もある常連校・横浜南陵と、初出場の和歌山北による優勝決定戦。横浜南陵は毎フレーム、1投目もカウントを落とさずにしっかりとマークをつなげていった。和歌山北も1マーク差で必死に追っていき、6フレーム目からは山本が連続ストライクで逆転を狙っていった。同じタイミングで横浜南陵・岩川奈央もターキーをマークして、両チーム一歩も譲らない激戦となった。

9フレーム目で2人そろってストライクを決め、チャンスを作った和歌山北だったが、伊勢川が10フレーム目痛恨のオープンで万事休す。横浜南陵は2人ともフルマークにまとめ、逆転を許さなかった。予選からチームを支えた内田に岩川が呼応して、最高のゲーム展開で頂点を勝ち取った。

男子の部

九州文化学園（長崎）は1回戦2ゲーム目に575の超ビッグゲーム。トータルも1448とし首位発進した。県立釜利谷（神奈川）も同じく2ゲーム目に500を上回って、26ピン差で2位につけた。

九州文化学園は2回戦も安定したスコアメイクで1300をマークした。堀越（東京）が1381として2位に浮上してきたが、九州文化学園は依然75ピンのリードを保っていた。

ところが3回戦、九州文化学園は1ゲーム目にスコアを落としてシリーズ1173。これが響いて3位に後退してしまった。代わって1位通過したのは、1375と打ち上げた国士舘（東京）。釜利谷も1364をマークして2位に再浮上した。

決勝トーナメントはいきなり波乱の展開。国士舘が8位通過の県立横浜南陵（神奈川）を相手に1回戦敗退を喫した。釜利谷は7位通過の都立中野工業（東京）にリードを許してしまうが、最終フレームで大逆転勝利した。九州文化学園は一昨年優勝の県立大宮工業（埼玉）に大差で勝利し、5位の堀越は古畑和輝が268をマークして4位藤花学園尾山台(石川)を破った。

2回戦、九州文化学園と釜利谷の対戦は、打ちきれない中でもミスを少なくまとめた九州文化学園が終始リードして勝ち上がりを決めた。堀越はゲーム前半で横浜南陵に4マーク差をつけると、そのまま一気に勝負を決めた。

優勝決定戦へ駒を進めた九州文化学園と堀越は、勝てばどちらも初優勝。気合が表れたようなストライクラッシュで始まった。

前半だけで、九州文化学園は大園琢矢がターキー、徳久恵大はダブル。堀越も鈴木彪雅がターキー。古畑和輝はダブルを決めると中盤にフォースでさらにスコアを伸ばした。九州文化学園も二人そろってターキーを決めたが、1マーク差を追って後が無い9・10フレーム目で相次いで4・9番ピンを残すスプリット。望みをつなぐため勝負に出た2投目は、いずれもノータッチに終わった。

堀越はストライクラッシュの一方で、オープンフレームはスプリットの2回のみ。決勝トーナメントは3戦とも400台と、堅実さが光る優勝だった。

H/Gの三上㊧と山本

H/Sの山之内㊧と伊藤

ガイド

「ボウリングの甲子園・川崎」が定着した全国高等学校対抗選手権大会。今年もJBCと（公財）川崎市スポーツ協会主催、川崎市、川崎市教育委員会共催で開催された。

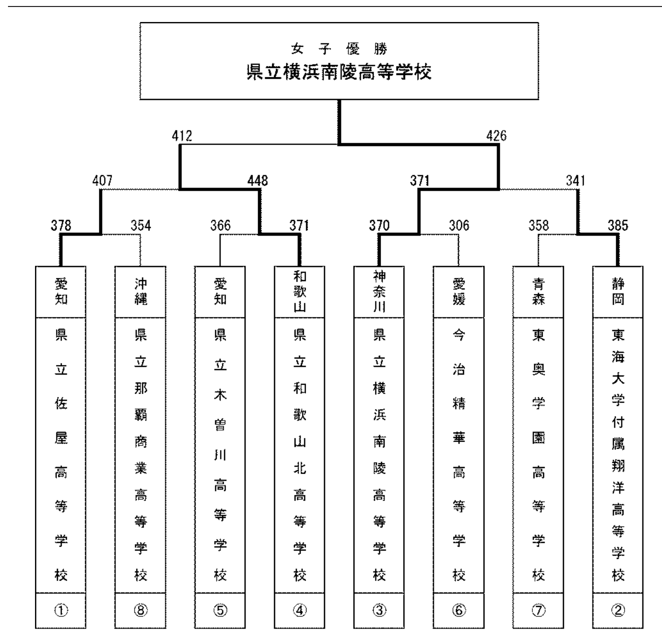
競技種目は男女とも2人チーム戦で、予選は9ゲームを行い、上位8校が決勝トーナメントに進出する。順位に応じて組み合わせを決定し、1ゲームマッチで1回戦、2回戦、優勝決定戦を勝ち上がったチームが優勝となる。

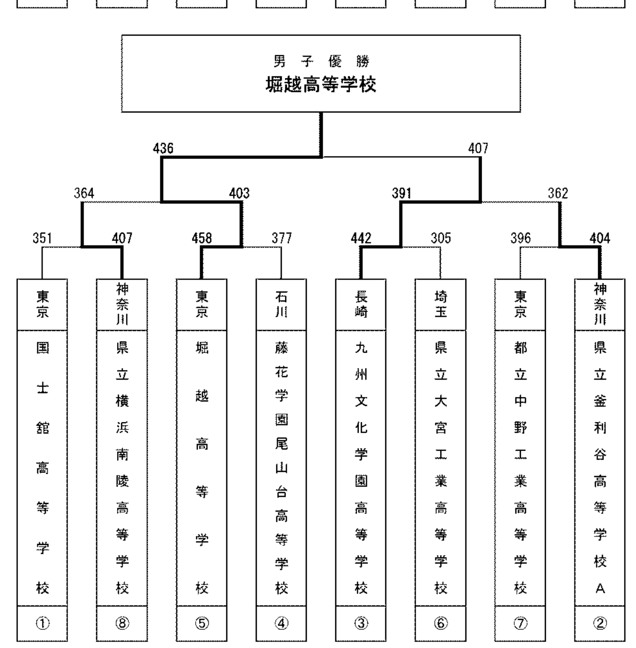
今大会、女子の部優勝の県立横浜南陵高校（神奈川）は2度目の優勝。女子で複数回優勝は3校目となった。男子優勝の堀越高校（東京）は4校目となる男女優勝経験校となった。

主催 （公財）全日本ボウリング協会（公財）川崎市スポーツ協会
共催 、川崎市、川崎市教育委員会
後援 スポーツ庁、神奈川県教育委員会、（公財）神奈川県体育協会、神奈川県高等学校体育連盟、川崎地区高等学校体育連盟、全国ボウリング公認競技場協議会、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）
協力 （公社）日本ボウリング場協会、川崎グランドボウル、読売新聞川崎読売会、川崎ホテルパーク、パールホテル川崎、ホテルスカイコート川崎、川崎セントラルホテル
協賛 川崎アゼリア㈱
主管運営 神奈川県ボウリング連盟

男子の部入賞校

女子の部入賞校





※学校名下の数字は予選順位

文部科学大臣杯 第23回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会 成績表

平成28年12月23日(金・祝)～25日(日)
会　場：神奈川県・川崎グランドボウル

参加：男子63校・女子22校

《男子の部》

順位	学校・選手	
優勝	堀越高等学校（東京都） 鈴木彪雅（1年）古畑和輝（2年）	
準優勝	九州文化学園高等学校（長崎県） 大園琢矢（1年）徳久恵大（1年）	
第3位	神奈川県立横浜南陵高等学校（神奈川県） 羽ヶ崎匠海（1年）田中優哉（2年）池田瑛亮（2年）	
第4位	神奈川県立釜利谷高等学校A（神奈川県） 恩田賢人（3年）伊藤匠海（1年）神保海斗（2年）	
第5位	東京都立中野工業高等学校（東京都） 新倉拓郎（3年）本橋竜輔（2年）	
第6位	藤花学園尾山台高等学校（石川県） 山本青空（2年）田中智之（3年）	
第7位	国士舘高等学校（東京都） 関口幸大（2年）天川陸（1年）	
第8位	埼玉県立大宮工業高等学校（埼玉県） 前島京介（3年）浦野一稀（3年）	
ハイゲーム	山本青空（石川県・藤花学園尾山台高等学校2年）	300
ハイシリーズ	伊藤匠海（神奈川県・神奈川県立釜利谷高等学校1年）	802

《女子の部》

順位	学校・選手	
優勝	神奈川県立横浜南陵高等学校（神奈川県） 岩川奈央（2年）内田侑希（3年）横山由香（2年）	
準優勝	和歌山県立和歌山北高等学校（和歌山県） 伊勢川華愛（1年）山本栞那（2年）	
第3位	愛知県立佐屋高等学校（愛知県） 水谷若菜（1年）山之内愛（3年）	
第4位	東海大学付属静岡翔洋高等学校（静岡県） 熊王僚美（1年）田澤舞（1年）	
第5位	愛知県立木曽川高等学校（愛知県） 山田望玖里（2年）服部優子（3年）	
第6位	東奥学園高等学校（青森県） 三上裕生（3年）中村優花（1年）	
第7位	沖縄県立那覇商業高等学校（沖縄県） 波平明香里（2年）大城美幸（2年）	
第8位	今治精華高等学校（愛媛県） 菊川加那子（3年）池内紫音（3年）	
ハイゲーム	三上裕生（青森県・東奥学園高等学校3年）	257
ハイシリーズ	山之内愛（愛知県・愛知県立佐屋高等学校3年）	703

第48回
全日本大学個人ボウリング選手権大会
2017/2/21火▶23木
主催 公益財団法人 全日本ボウリング協会
後援 全国ボウリング公認競技場協議会
主管 全日本学生ボウリング連合 関西学生ボウリング連盟
キョーイチボウル宇治
〒611-0042 京都府宇治市小倉町神楽田55-1
TEL 0774-22-5524
http://www.matsubara-kosan.co.jp/hall/bwl01.html

メダルにつながる！充実の5泊6日

全日本ナショナルチーム ウィンターキャンプ

全日本ナショナルチームは1月10日㈫から15日㈰にかけてウィンターキャンプを開催。沖縄県北谷町に21名のメンバーが集まって強化メニューに取り組みました。

フィジカル強化をメインにした昨年のウィンターキャンプは、その後の国際大会にメダル獲得というかたちで成果を残しました。今年も1年の活躍につながると確信できるほどの厳しい特訓を展開。充実の6日間をキーワードとともに紹介します。

投球スキル

今年もエナジックボウル美浜（公競№147－024）がキャンプのベースに。投球練習の目的として下地賀寿守監督が設定したのは「ローテーション変更スキルの習得」。刻々と変化するレーンコンディションへの最も有効な対処法として、ボールの回転方向を自在に変える技術を身につけようということでした。

練習中はメンバーの投球フォームを真正面や横から撮影。バランス、スイング、スライド等のタイプを確認しながら個々の改善点を下地監督が指導しました。初日と２日目は大半の時間をフリー投球に充て、スコアをつけたのは１ゲームのみでした。

合宿後半に入ると、スコアメイクも意識しながらの練習に。同じオイルパターンを２種類のオイルで作り、その違いを確かめました。トリオ戦３ゲームをオイル違いで２シリーズ投球。１シリーズで男子はプラス200、女子はプラス100を目標としました。

この練習によって、メンバーの投球ラインを合わせることや、ローテーションスキルの必要性をより強く実感した上で、次の練習では具体的なスキル習得訓練に入りました。またレーンに貼ったリボンに沿って投げることで、ラインコントロールの正確さをチェックしました。

フィジカル強化

昨年のウィンターキャンプで身体を鍛えた結果、世界ユース選手権、アジア選手権ともに大会後半のチーム戦、マスターズ戦でのメダル獲得につながりました。今回もフィジカル強化メニューは投球練習以上に時間をかけて行いました。

担当する瀧本未来トレーナーは初めに、メンバーが一緒だからこそ自分を追い込めると話し、正しい方法を覚えること、トレーニングを通じてチームビルディングすることを目標と示しました。

毎朝６時半から活動開始。軽いストレッチの後、早歩きで北谷公園のウォーキングコース（1.3キロ）を１周し、もう一度ストレッチして朝食へ向かいます。

初日のトレーニングはストレッチと２人組で対決形式のトレーニングを１時間行いました。２日目は約５キロをランニングしてＳＯＬＡ沖縄学園へ。ウェイトトレーニングやダッシュ、ジャンプなどの基礎的な運動に加えて、チームワークづくりを目的にメンバー対抗バスケットボールも行いました。ゲーム性のある運動には、頭を使いながら体を動かす狙いもあります。

エナジックボウルにほど近い北谷公園陸上競技場では、トラック走や、一方向に進みながら様々なストレッチを行う「ダイナミックストレッチ」でウォームアップし、２人組で対決ゲーム（鬼ごっこ、相撲）、サーキットトレーニングをしました。

キャンプ中１日だけ、雨天のために予定を変更。５キロ走ができなかったこの日もＳＯＬＡ沖縄学園でウェイトトレーニングを行いました。

最終日は２キロ走ってアラハビーチ沿いのバスケコートへ。ここで待っていたのはメンバーが最も恐れる「シャトルラン」。持久力を試す往復走はナショナル合宿の定番メニューです。走り終えたあとの帰り道も２キロ走、さらにビーチでダッシュ競争と、期間中一番の走り込みをしてキャンプ完了となりました。

瀧本トレーナーは最初に話した目標の意味を、修了式で改めて説明。メダル獲得という同じ目標を持つ者が集まっているからこそ厳しい練習を最後までやり抜けることや、限界まで疲れることで体のケアが必要なことに気づき、日々練習に取り組んでほしいと話しました。

食　事

国際大会では概ね３時間をかけて３～８ゲームを投球し、日程も１～２週間と長丁場です。集中と弛緩を繰り返しながらも再現性の高い投球が求められるため、全身持久力の向上は欠かせません。

スタミナと筋肉の増強のため、毎日ボリュームと栄養のある食事が用意されました。朝食は、フィジカルトレーニングのある日は和食で一汁三菜。投球のみの日はサンドイッチとスープの洋食を毎日完食してから練習に取り組みました。

バイキング形式の食事では栄養も考えながら各自バランスよく摂るように。お弁当の場合は不足しがちなビタミンをバナナやみかんなどのフルーツで補いました。そして３度の食事だけでなく、トレーニングの合間にも糖分を積極的に補給しました。

単純に体重、脂肪を減らせば良いのではなく、体を強く鍛え上げることが目的。そのためにはまずしっかり食べること、そしてトレーニングで体をしぼることが大事と、北川薫会長も念押ししました。

大歓迎

２度目となった沖縄でのウィンターキャンプ。前回以上の大歓迎をいただきました。

１月10日㈫に（公財）沖縄県体育協会を訪問し、渡嘉敷通之専務理事、上地聡事務局長と面談しました。全国と比較してもボウリングが盛んな沖縄だけに、合宿の成功でさらなる競技普及につながるよう期待されました。

１月11日㈬にはエナジックボウル美浜で、北谷町と県体協による歓迎セレモニーが催されました。北谷町の野国昌春町長から激励のことばをいただき、町内の各位より合宿にとても役立つ差し入れが多数提供されました。チームを代表して佐々木智之キャプテンは、昨年の合宿が海外での金メダル獲得につながったことを報告し、キャンプの成果を発揮して世界一を目指すと答辞を述べました。

歓迎セレモニーの様子は当日夕方のＮＨＫニュース（沖縄放送局）で紹介され、県内の新聞各紙でも大きく採り上げられました。

ジュニアと交流

１月14日㈯は沖縄県連盟のジュニア選手約30名が集まって、メンバーとの交流大会を開催。体の硬さ確認を兼ねたストレッチをメンバーがジュニアたちに指導してから、ナショナルとジュニア混成の３人チーム戦を行いました。最後に参加者から、設定したオイルパターンの難しさと、それを攻略するメンバーの上手さに驚いたとの感想をもらいました。沖縄のジュニア選手たちに、さらに高いレベルの刺激を受けてもらう良い機会になりました。メンバーも厳しい練習が続く中、ふれあいを楽しむ時間を持てました。

スタッフ・参加選手

▽**協会役員**　北川薫会長、齋藤良太郎専務理事、砂古口信夫強化委員長

▽**競技力向上部会**　下地賀寿守部会長（ナショナルチーム監督）、山下知目部会員、石嶺可奈子部会員、瀧本未来部会員

▽**選手（男子）**　佐々木智之、宮澤拓哉、新垣雄飛、吉田健大、吉田大祐、安里秀策、伊吹太陽、堀拓樹、和田翔吾、村濱裕紀、八鍬良太、

▽**選手（女子）**　向谷美咲、大河内未来、佐藤悠里、竹川ひかる、入江菜々美、谷原美来、今井友葉、石本美来、北村恵（ユース）、小野瑞歩（ユース）

ご協力感謝いたします

公益財団法人沖縄県体育協会（合宿実施協力・広報協力）、沖縄県ボウリング連盟（合宿実施協力・ジュニア交流会開催）、北谷町（合宿実施協力・食品提供）、一般社団法人北谷町観光協会（施設利用）、沖縄北谷自然海塩株式会社（食品提供）、株式会社エナジックインターナショナル（施設利用・食品提供）、株式会社エナジックボウル（施設利用）、学校法人ＳＯＬＡ沖縄学園（施設利用）、美浜区自治会（施設利用・食品提供）、山内志津男様（食品提供）、石嶺様（食品提供）、安里様（食品提供）

ご協力くださいました各位、観覧・ご声援くださいました皆様に厚く御礼を申し上げます。

（順不同・敬称略）

沖縄県体協を訪問
（左から）渡嘉敷通之専務理事、上地聡事務局長、コンベンション推進課前原次男課長

キャンプ開始式　砂古口強化委員長より訓辞が

正面から撮影してフォームのタイプを確認

撮影した写真をもとに個々の改善ポイントを探りました

激励に来られたSOLA 沖縄学園の川満秀昭学校長（左）と仲田雅彦理事長（右奥）

ボウリングにない動きをすることもトレーニングになります

ウェイトトレーニングは正しい姿勢ですることが大事です

地元メディアもキャンプに注目
沖縄出身の村濱選手にインタビュー

北谷町より熱烈大歓迎
琉球装束のプレゼンターもご来場

ダッシュとジョグを繰り返す
トラック走はかなりハード

ひざをついて相撲勝負　頭も使う運動です

ナショナルチームスポンサーのエナジック
インターナショナル・山口営業部長
握手で選手を激励

チーム戦形式の投球練習
目標スコア不達なら追加トレーニングも

シャイな沖縄ジュニアと、100%楽しんでるナショナルメンバー

体育学が専門の北川会長も認めるほど選手のアスリートらしさはUPしています

チーム戦必勝のために精度を高める練習がこちら

沖縄も１月の夜明け前は寒々
朝トレでウォームアップ

青い海　白い砂浜　ひたすら走る（字余り）

We are Team JAPAN ナショナルチーム通信

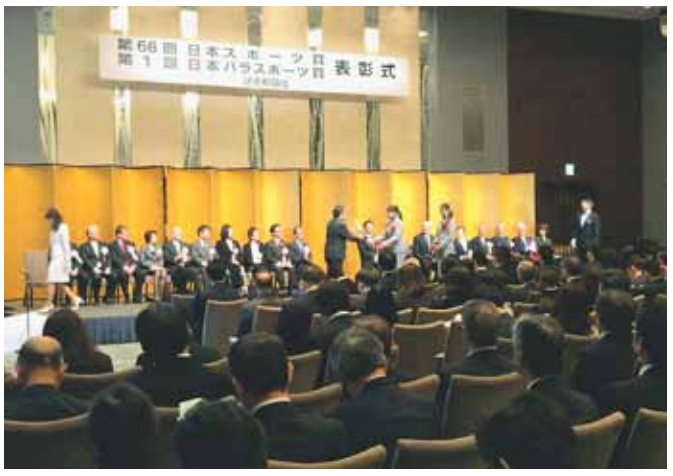
（左から）石本・野島・泉宗のゴールドトリオが受賞

アジア選手権女子トリオが 日本スポーツ賞 競技団体別最優秀賞

第66回日本スポーツ賞（読売新聞社制定）の競技団体別最優秀賞を、第24回アジア選手権大会女子トリオチームが受賞しました。

メンバーは野島はるな選手（静岡・㈱N&K）、石本美来選手（学連・岡山商科大学）、泉宗心音選手（愛媛・聖カタリナ学園高等学校）の3名です。大接戦・大混戦となった女子トリオ戦で、抜群のチームワークを発揮して見事優勝。同種目16年（8大会）ぶりとなる金メダルを獲得しました。

1月19日㈭に開かれた表彰式には3選手が集合し、記念のトロフィーと賞状を授与されました。（喜びの声は協会公式Facebookで公開しています）



東京運動記者クラブ表彰 佐々木智之が最優秀選手に

東京運動記者クラブ・ボウリング分科会が選ぶ2016年のアマチュア最優秀選手に、佐々木智之選手（神奈川・湘南モノレール㈱）が選ばれました。

国内ではNHK杯全日本選抜選手権大会で3度目の優勝を飾り、海外でも男子キャプテンとして臨んだ第24回アジア選手権大会で16年（8大会）ぶりとなる男子チーム戦金メダル獲得に大きく貢献したことが評価されました。

表彰式には協会北川薫会長が代理で出席し、記念の楯を受けました。プロの部最優秀選手には川添奨太プロが、ニュースター賞には髙橋俊彦プロが選出され、ナショナルチームの現役・OBメンバーが3賞を独占しました。

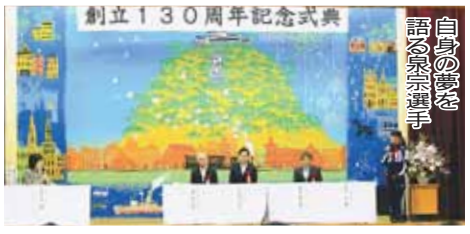
北川会長㈲と川添プロ㈱、髙橋プロ

泉宗選手が後輩にエール

泉宗心音選手が出身校の松山市立番町小学校の創立130周年記念式典にゲストとして登場しました。

「夢を語ろう～番町のそして私の未来は？～」と題したパネルディスカッションに、元PTA会長でもある父・義宏さんとともにパネラーとして参加。ボウリングで夢を追う自身の経験から、後輩たちにエールを送りました。

愛媛国体まで1年を切り、地元の期待も一層高まっている泉宗選手です。



自身の夢を語る泉宗選手

INFORMATION 大会・イベント情報

全日本ナショナルチーム ユースナショナルチーム 選考（参考記録）会を開催します

平成29年度全日本ナショナルチーム・ユースナショナルチーム（参考記録）会を3月に開催します。

当日は体力テストと投球の実技テストが実施されます。平成29年度は、ナショナルチームはシード選手を含め男女各10～12名が、ユースナショナルチームは男女各6～8名が選考・認定されます。

なお平成28年度の男女キャプテン（佐々木智之・向谷美咲）はシード選手として29年度も継続認定されます。

概要に記載の参加資格を満たす選手がエントリーできます。詳しくは各加盟団体までお問い合わせください。

【概　要】

▽期日　3月24日㈮～26日㈰

▽会場

●投球実技テスト　岐阜グランドボウル（岐阜県瑞穂市／公競№124-024）

●体力テスト　朝日大学（岐阜県瑞穂市）

▽参加資格

●全日本ナショナルチームメンバー　1982年4月2日～1999年4月1日生（2017年4月1日現在、満18歳～34歳）で、かつ以下に該当する者

1・平成28年度全日本（ユース）ナショナルチームメンバー

2・加盟団体推薦選手

●全日本ユースナショナルチームメンバー　1999年4月2日～2003年4月1日生（2017年4月1日現在、満14歳～17歳）で、かつ以下に該当する者

1・平成28年度全日本ユースナショナルチームメンバー

2・ジュニアジャパン強化選手認定者

3・加盟団体推薦選手

▽申込締切　3月3日㈮（選手推薦書および施設使用料送金締切）

全日本ジュニア強化コーチ研修会 東京・大阪で開催します

平成28年度全日本ジュニア強化コーチ研修会を、東京・大阪の2会場で開催します。

各都道府県でジュニア選手の発掘、育成に携わるコーチの方々と、国際競技力向上につながる指導方法を共有するための研修会です。

日体協公認コーチ・指導員資格をお持ちの方、取得予定の方はもちろん、ジュニア指導に当たっている方はふるってご参加ください。

【研修会概要】

▽期日・会場

●東京会場　3月4日㈯・シチズンボウル（東京都新宿区）

●大阪会場　3月5日㈰・イーグルボウル（大阪府大阪市）

※研修内容は同一です。都合の良い会場を選択してください。

▽参加費　無料

▽申込方法　所定の申込用紙に記入の上、各都道府県連盟を通じてお申込みください。

▽申込締切　2月23日㈭（先着50名にて締め切ります）